

1、活動スケジュール

年長

- ① 講師に本日の活動についての講師の「ねらい」「活動の組み立て」「設定する予定の環境の意図」を聞く。
- ② グラウンドで講師と始まりの挨拶をする。
- ③ 講師の話を聞いて、縄跳びをまるくしてお散歩風にいろんなところを歩き回る。
- ④ 講師の指示で歩く、スキップ、ギャロップをしながら、講師の合図でどこでもよいので縄跳びの輪の中に入る。
- ⑤ 講師が、次の活動、縄跳びの駆け足跳びについて話をする。
- ⑥ 駆け足跳びをする。
- ⑦ 回し跳びをする。
- ⑧ ボールを使って、2チームに分かれ、転がしたボールを取って、転がし返す動きをする。
- ⑨ 投げてバウンドさせたボールを取りに行き、今度は相手にバウンドし返す。
- ⑩ 相手の子の腰あたりにボールを当てるように投げる、交代して同じ動きをする。
- ⑪ 助走をつけてボールを相手に届くように投げる。交代して同じ動きをする。
- ⑫ 講師と終わりの挨拶をする。

- 2、〈本日の活動のねらい及び内容〉・・・操作系運動スキル、協応性、集中力、空間認知能力の向上、
身体認識力の向上

〈活動のために準備した素材や道具、環境の設定〉

道具・・・縄跳び、ボール

3、活動の様子

体操の講師	担任及び子どもの姿
・子どもたちが縄跳びを丸くし、周りを歩く、スキップ、ギャロップなど指示する。	・自分の縄跳びだけに固執している子の援助を担当がし、たくさんの縄跳びの周りを動けるように手を引いて動く。
・体が温まったところを見計らって、自分の縄跳びのところに戻って、縄跳びの中に入るように伝える。	・講師の指示に従い、殆どの子が縄跳びの丸に入るが、指示を聞き取れなかった子や意味が分からない様子の子の援助を担当がして、自分もできたという満足感が得られるようにしている。
・駆け足跳びでは、講師からまずは腕を飛行機のように伸ばすこと、手をまわして跳んでみるなどの指示をする。	・子どもたちもやってみる。担任も声を掛けながら励まし、うまくいかない子の援助をする。
・ドッジボールにつながる動きに代わる。講師が一人子どもを呼び、ボールを相手の子に転がしボールが転がってきそうなところに予測を立てて取りに行く見本を見せる。	・子どもたちがやってみる。どうしたら良いのか分からないのかやらない子に対して、担任が相手になり、援助しながら楽しさを感じられるようする。
・次にバウンドボールを投げ、見本を示す子が予測して取りに行くのを見せる。	・バウンドボールも、どの辺にボールが行くのか予測が難しい様子もあり、コロコロ転がったボールを取りに行く様子もあるが、何度も繰り返しているうちに汗をかきながら楽しそうにする様子が見られる。
・最後に相手の子の腰のあたりに当てる見本を見せる。	・当たると楽しそうなアクションをしており、互いに何度も試していた。投げても当たらないことが多かったが、楽しく行っていた。

4, 振り返り

- ・講師と本日の活動の「ねらい」を打ち合わせていたことで、援助のポイントが絞られた。
- ・講師がポイントを分かりやすく子どもたちに伝えているので、どうしたらうまくいくのか子どもにも伝わり、取り組まない子や指示が分からない子に対して、担任も子どもたちにどこを援助したらよいか分かった。
- ・今回の活動はドッジボールの動きにつながる運動遊びだった。一つ一つの活動を楽しむことで、ドッジボールをするときに相手に当てる動きやボールを取る動き、バウンドボールも逃さない動きなどにつながる事が分かった。
- ・3年間のプロセスの中で、年少から年長に向けて、講師との連携を大事にして、いろいろな体の動きが楽しめるようにしてきている。年長の今、自分の目あてに向かって挑戦し、今後チームで競うドッジボールへの基礎となる活動を楽しんで行うことで、基礎スキルが身に付き、子どもたちのコミュニケーション力も付き、子どもたち同士が健全な心と体作りができる機会になっていると感じた。

